

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	医療と臨床心理学／病院臨床心理学						
担当教員	唐津 尚子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	臨床心理学を実践する現場として、病院もその一つに挙げられる。「身体の不調」を訴えている方は、同時に不安や苦悩、辛さや悲しみを抱えていることが多いことだろう。また、「身体の不調」自体の背景に心理社会的背景を持っている場合もあるだろう。したがって、来院される方に対して円滑で効果的な治療を進めていくために、臨床心理学的アプローチが重要な意味を成す場面も多くあると考えられる。 本講義においては、病院に来院される方に対し、臨床心理学的アプローチを行っていくことを視野に入れ、具体的に用いられる方法についての基礎を学習していく機会にしたいと思っている。また、心理士が病院で仕事をするにあたって心がけるべき言動・姿勢・態度や患者様・病院スタッフと関わっていく上で意識すべき点などについても触れていきたいと考えている。
授業計画 Syllabus	第1回：病院臨床心理学…講義についての概要 第2回：医療現場において必要とされる心理職について 第3回：ストレスについて ①ストレスについて知る 第4回：ストレスについて ②ストレスと疾患との関連 第5回：ストレスについて ③ストレスへの対処と臨床心理 第6回：医療現場と臨床心理 交流分析① 第7回：医療現場と臨床心理 交流分析② 第8回：医療現場と臨床心理 交流分析③ 第9回：医療現場と臨床心理 認知行動療法① 第10回：医療現場と臨床心理 認知行動療法② 第11回：医療現場と臨床心理 認知行動療法③ 第12回：医療現場と臨床心理 心理テスト 第13回：家族へのアプローチ 第14回：講義全体の整理とまとめ 第15回：講義の理解度を確認する…試験
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	適宜資料を提示する。資料に沿って講義を行う。自身でいろんな心理尺度を使って、自己の現状を把握してもらうなども行っていく。
評価方法 Evaluation	出席：30% ミニレポート：10% 定期試験：60% で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	私語厳禁。病院で臨床心理学を実践する、ということに対して何らかの興味関心を持っている学生の受講を望む。
教科書 Textbook (s)	特になし。参考文献に関してはその都度、講義中に紹介する。
参考書 Reference (s)	特になし。参考文献に関してはその都度、講義中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	英語で読む心理学B						
担当教員	久津木 文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜5	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	英語で読む心理学Aの続き。前期の進捗具合で調整する。大学院受験には専門及び一般的な英語の読解力は必須である。本講義では、心理学の概論書を英語で講読することが目的である。心理学の基礎を固めながら英語での専門用語を習得する。
授業計画 Syllabus	1 オリエンテーション 発表担当決定 2 Chap5 motivation and emotion- motivation 3 Chap5 motivation and emotion-hierarchy of needs 4 Chap5 motivation and emotion-primary emotion 5 Chap6 Developmental psychology- Genie 6 Chap6 Developmental psychology-personality 7 Chap6 Developmental psychology- attachment 8 Chap6 Developmental psychology-relationships 9 Chap7 Can we categorize people? 10 Chap7 IQ 11 Chap7 Factors affecting IQ. 12 Chap7 Personality 13 Chap8 Abnormal Psychology-classification 14 Chap8 Abnormal Psychology-Explanations 15 総括
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	論文講読 発表形式
評価方法 Evaluation	平常点(授業態度及びディスカッション等)40%, 発表60%
履修上の注意 Requirements and policy	発表担当者は担当部分を熟読し、レジュメ(ハンドアウト)にまとめ授業参加者に配布できるよう準備する。発表準備の程度やクラスディスカッションへの貢献も総合評価に含まれる。
教科書 Textbook(s)	Psychology: A very short introduction. Oxfor U.P. (by Guilian Butlerら)
参考書 Reference(s)	心理学 (psychology) --冊でわかるシリーズ 岩波書店 (byギリアン・バトラーら)
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	家族心理学						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代日本の家族は、社会と密接な関係を保ちつつ変化している。たとえば、少子化、晩婚化、離婚の増加、母親の就労、高齢化などである。本講義では、夫婦関係、親子関係を中心に、それらの現代的特徴と心理的影響について学習する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 家族の定義、同一性、機能 2. 生殖環境、家族アイデンティティ 3. 夫婦の損得勘定 4. 子どもの価値、睡眠習慣 5. 現代の家意識 6. 食生活からみた家族関係 7. ドメスティック・バイオレンス 8. ビデオ 山田太一の家族の肖像 9. コミュニケーションの文化差 10. ワークライフ・バランス、多重役割 11. 子どもの問題行動と家族関係 12. 思秋期、老年期の家族関係 13. 福祉と家族 14. 質疑応答 15. 後期試験
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	平常点30%、定期試験70%
履修上の注意 Requirements and policy	座席指定
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する
参考書 Reference(s)	「家族心理学」 榎本博明(編著) おうふう 2009
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	学習心理学／学習心理学I						
担当教員	吉野 俊彦						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	人間の行動のルーツを考えたとき、その多くが学習過程に依存していること気づく。人間が主体的に環境、とりわけ周囲の人間との関わりの中で様々な行動を獲得し、抑制している過程を説明するためには2つの条件づけを理解することが必須である。本講義では、行動分析学に軸足を置きながら、行動のメカニズムを探っていく。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション：学習について学ぶ 2. 馴化と鋭敏化 3. 古典的条件づけ1 基本的特徴(1)：獲得過程 4. 古典的条件づけ1 基本的特徴(2)：制止過程 5. 古典的条件づけ2 信号機能(1)：レスコーラ・ワグナー・モデルと信号機能 6. オペラント条件づけ1 基礎 7. オペラント条件づけ2 強化・消去と罰・強化スケジュール(1)：強化 8. オペラント条件づけ2 強化・消去と罰・強化スケジュール(2)：罰 9. オペラント条件づけ 阻止の随伴性とルール支配行動(教科書に含まれない) 10. オペラント条件づけ3 刺激性制御(1)：弁別 11. オペラント条件づけ3 刺激性制御(2)：般化 12. 概念学習・観察学習・問題解決(1)：概念学習・観察学習 13. 概念学習・観察学習・問題解決(2)：問題解決 14. 記憶と学習 15. まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	原則として教科書に沿って、それぞれのトピックを解説していく。但し、日常生活に深く関わると考えられるものに限って、適宜教科書に含まれないトピックも解説する。パワーポイントを使用した講義形式を採るが、より理解を深めるために、学生同士で考える時間を設ける。
評価方法 Evaluation	毎時間のリアクションペーパー(50%)、授業内レポート(20%)、期末レポート(30%)。2つのレポートについては複数の課題から各自の興味に関わるひとつを選択する。
履修上の注意 Requirements and policy	自分の行動と授業で扱う学習過程の関わりを、積極的に考えてほしい。随時、ブログで話題を補足するので、参照すること。
教科書 Textbook(s)	実森正子・中島定彦(2000). 学習の心理：行動のメカニズムを探る サイエンス社
参考書 Reference(s)	授業内、およびブログで紹介する。
備考 Remarks	人間の行動の成り立ちを考える枠組みを与えてくれるひとつに行動分析学があります。ある意味では一見骸骨のように無味乾燥に思えるかも知れませんが、その骨組みの上にひとりひとりの行動が成立していることのおもしろさを感じてもらえればと思います。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II／久津木 文						
担当教員	久津木 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心を、後期は「質問紙」の形にする。そして、各自の質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析する。最後に、自らの調査結果を、個人発表する。
授業計画 Syllabus	01：質問紙の作成(1) (講義) 02：質問紙の作成(2) (実習) 03：質問紙の作成(3) (実習) 04：質問紙への回答 05：データの入力 06：データ分析(1)単純集計、基本統計量) 07：データ分析(2) (クロス集計、相関係数) 08：データ分析(3) (グラフの作成) 09：論文作成(1) (問題) 10：論文作成(2) (方法) 11：論文作成(3) (結果) 12：論文作成(4) (考察と引用文献) 13：発表ファイルの作成 14：個人発表(1) 15：個人発表(2)
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、演習形式
評価方法 Evaluation	授業への出席、レポート、個人発表。授業態度による
履修上の注意 Requirements and policy	・提出物は、2枚以上のものはホッチキスでとめて、授業開始時に提出。提出期限に遅れたものは、次週に提出(減点)。 ・第3回の質問紙の作成Ⅲの授業終了時に質問紙を提出できなかったものは、各自で2クラスの人数分の質問紙を印刷して、次週に持参すること。 ・遅刻、忘れ物をしたものは、欠席とみなす。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II／坂本 真佐哉						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心を、後期は「質問紙」の形にする。そして、各自の質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析する。最後に、自らの調査結果を、個人発表する。
授業計画 Syllabus	01：質問紙の作成(1) (講義) 02：質問紙の作成(2) (実習) 03：質問紙の作成(3) (実習) 04：質問紙への回答 05：データの入力 06：データ分析(1)単純集計、基本統計量) 07：データ分析(2) (クロス集計、相関係数) 08：データ分析(3) (グラフの作成) 09：論文作成(1) (問題) 10：論文作成(2) (方法) 11：論文作成(3) (結果) 12：論文作成(4) (考察と引用文献) 13：発表ファイルの作成 14：個人発表(1) 15：個人発表(2)
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、演習形式
評価方法 Evaluation	授業への出席、レポート、個人発表。授業態度による
履修上の注意 Requirements and policy	・提出物は、2枚以上のものはホッチキスでとめて、授業開始時に提出。提出期限に遅れたものは、次週に提出(減点)。 ・第3回の質問紙の作成Ⅲの授業終了時に質問紙を提出できなかったものは、各自で2クラスの人数分の質問紙を印刷して、次週に持参すること。 ・遅刻、忘れ物をしたものは、欠席とみなす。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II／土肥 伊都子						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心を、後期は「質問紙」という形にする。そして、質問紙調査で得られたデータを、Excelを用いて分析する。最後に、自らの作成した質問紙での調査結果の解説を、個人発表の形で行う。
授業計画 Syllabus	01：質問紙の作成(1) (講義) 02：質問紙の作成(2) (実習) 03：質問紙の作成(3) (実習) 04：質問紙への回答 05：データの入力 06：データ分析(1)単純集計、基本統計量) 07：データ分析(2) (クロス集計、相関係数) 08：データ分析(3) (グラフの作成) 09：論文作成(1) (問題) 10：論文作成(2) (方法) 11：論文作成(3) (結果) 12：論文作成(4) (考察と引用文献) 13：発表ファイルの作成 14：個人発表(1) 15：個人発表(2)
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義、演習形式
評価方法 Evaluation	課題提出、授業態度など平常授業への取り組み60%、レポートと個人発表40%
履修上の注意 Requirements and policy	・提出物は、2枚以上のものはホッチキスでとめて、授業開始時に提出。提出期限に遅れたものは、次週に提出(減点)。 ・第3回の質問紙の作成Ⅲの授業終了時に質問紙を提出できなかったものは、各自で2クラスの数分の質問紙を印刷して、次週に持参すること。 ・遅刻、忘れ物をしたものは、欠席とみなす。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B／心理学調査法II／待田 昌二						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1～4	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	前期の「基礎演習A」で形にした心理学への関心を、後期は「質問紙」の形にする。そして、各自の質問紙調査で得たデータを、Excelを用いて分析する。最後に、自らの調査結果を、個人発表する。						
授業計画 Syllabus	01：質問紙の作成(1) (講義) 02：質問紙の作成(2) (実習) 03：質問紙の作成(3) (実習) 04：質問紙への回答 05：データの入力 06：データ分析(1)単純集計、基本統計量) 07：データ分析(2) (クロス集計、相関係数) 08：データ分析(3) (グラフの作成) 09：論文作成(1) (問題) 10：論文作成(2) (方法) 11：論文作成(3) (結果) 12：論文作成(4) (考察と引用文献) 13：発表ファイルの作成 14：個人発表(1) 15：個人発表(2)						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義、演習形式						
評価方法 Evaluation	平常授業時の出席・課題提出60%，授業態度20%，発表資料と発表20%						
履修上の注意 Requirements and policy	・提出物は、2枚以上のものはホッチキスでとめて、授業開始時に提出。提出期限に遅れたものは、次週に提出(減点)。 ・第3回の質問紙の作成Ⅲの授業終了時に質問紙を提出できなかったものは、各自で2クラスの人数分の質問紙を印刷して、次週に持参すること。 ・遅刻、忘れ物をしたものは、欠席とみなす。						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	行動観察法						
担当教員	志澤 康弘						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この講義では行動観察法を修得することを目的とする。 具体的には、問題の発見、研究計画、分析方法について行動観察に特有な方法を考慮しながら学ぶ。 また、行動観察に限らず、一般に人が苦手とする思考方法、確証バイアス、確率の無視という点についてを少しでも克服する方向に向けることをもう一つの目的とする。
授業計画 Syllabus	行動観察の導入および体験 1. 行動研究の概要 2. 映像を見て観察を体験する 3. 映像を見て分析を体験する 行動観察法（講義） 4. 問題の発見から研究の目的へ 5. 研究計画（何をどのように測定するか） 6. 行動の測定法（サンプリングの方式と記録の方式） 7. 行動の測定に関する留意点（信頼性と妥当性他） 8. 分析方法（概論） 9. 分析方法（統計の使用について） 10. 分析方法（行動観察でしばしば用いられる特殊な分析） 実習 12. 本レポートに向けて 13. データの収集 14. レポートの書き方 15. レポートの作成について まとめ 行動観察のポイントと一般社会生活における仮説検証
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義・実習
評価方法 Evaluation	2回のレポート（第1回30点、第2回70点）。 授業に出席し参加することを前提とする（1回の欠席で1点減点とする、明らかに授業に参加していない態度を示す場合は評価上の出席とは見なさないことがある）。
履修上の注意 Requirements and policy	実際に計算するので、四則演算が苦手な人は、計算することを承知しておくこと。 統計は基礎から学習するが、十分な時間を割けるわけではない。したがって、統計の基礎は修めていることが望ましい。初めて統計に触れる者は、しっかりと講義を聴いてついてくる必要がある。また、表計算ソフトを使えることを前提とする。 わからないことは早めに質問することが望まれる。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	P. マーティン & P. ベイトソン 1990 行動研究入門 東海大出版会
備考 Remarks	参考図書は、将来行動観察を実際に行う者、また授業で取り上げる以上の情報を知りたい者以外は購入する必要はない。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	子育て支援の心理学						
担当教員	寺井 さち子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	子育て支援に関する基礎知識を幅広い領域から学ぶため、心理学領域に限らず、教育的意義、医学的意義、社会福祉的意義を踏まえて広い知識の習得を目指す。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> ①子育て支援とは ②子どもの位置づけの歴史と問題背景 ③子育ての使命と倫理 ④教育的意義について ⑤医学からの子育て支援 子どもの医学：妊娠から乳児期 ⑥医学からの子育て支援 子どもの医学：子どもの主な病気 ⑦臨床心理学からの子育て支援 乳児期から幼児期 ⑧臨床心理学からの子育て支援 幼児期から児童期 ⑨社会福祉からの子育て支援 家庭と地域 ⑩社会福祉からの子育て支援 高齢者の存在意義 ⑪子ども支援 海外に学ぶ ⑫子ども支援 遊びを通じた学び ⑬子育て実技 具体的対処について：子どもの病気 ⑭子育て実技 具体的対処について：子どもの怪我 ⑮総合的解説と到達度確認のテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	板書をしながら講義を行う。
評価方法 Evaluation	出席10%試験成績90%の割合で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	「児童期の臨床心理学」を履修していることが望ましい。
教科書 Textbook(s)	特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	講義中心の授業であるため、私語や居眠りが目立つ場合、退室を求めることもある。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	コミュニケーション演習／臨床心理学研究法Ⅳ						
担当教員	東 豊						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	コミュニケーション技法の基礎理論について学んだ後、実際にロールプレイ（役割演技）を通して援助的なコミュニケーションの方法を体験学習する。最初は1対1のコミュニケーション。相手に溶け込む方法と相手の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。次に1対複数のコミュニケーション。集団（2～3名）に溶け込む方法を学び、その集団の「自信・元気・可能性」等を引き出す方法を学ぶ。全員がロールプレイを体験し、講師が適宜解説を加える。
授業計画 Syllabus	第1回 授業内容と進め方についてオリエンテーション、グループ分け（自己紹介） 第2回 ロールプレイと討論 第3回 傾聴技法について（講義） 第4回 ロールプレイ1-1 傾聴 第5回 ロールプレイ1-2 傾聴 第6回 グループ報告とディスカッション、解決志向の会話（講義） 第7回 ロールプレイ2-1 解決志向の初級会話 第8回 ロールプレイ2-2 解決志向の初級会話 第9回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第10回 ロールプレイ3-1 複数面接 第11回 複数面接のコツ（講義） 第12回 ロールプレイ3-2 複数面接 第13回 ロールプレイ3-3 複数面接 第14回 グループ報告とディスカッション、質疑応答、補足説明 第15回 総括 レポート作成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	すべて演習形式で行う
評価方法 Evaluation	平常点 70% レポート 30%
履修上の注意 Requirements and policy	毎回決まったグループにて演習形式で行うので、遅刻・欠席をするとグループのメンバーに迷惑がかかります。遅刻・欠席については特に厳しく指導します。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	産業カウンセリング論						
担当教員	千葉 征慶						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	働く人々を対象にしたカウンセリングの実際を学ぶ。 事例対応と社員教育の実際、 直面するキャリアとメンタルヘルスの問題、 労働現場の背景にある労働安全衛生(行政)などについて、 カウンセラーの立場から紹介してゆきたい。
授業計画 Syllabus	第1回： 授業のガイダンスー産業カウンセラーのお仕事 第2回： メンタルヘルス教育の実際ーストレス対策、新人研修、生きがいテスト 第3回： メンタルヘルス相談の実際 第4回： メンタルヘルス事例対応ーその時どう動く？事例対応の二つの軸 第5回： 面接相談の基本を学ぶ1ー聴けますか？相手のお話 第6回： 面接相談の基本を学ぶ2ーひとの話の三つの要素（知・情・意） 第7回： 面接相談の基本を学ぶ3ー知・情・意の理解（つづき） 第8回： 面接相談の基本を学ぶ4ー感情を見落とさないようにしよう 第9回： 面接相談の基本を学ぶ5ーフィードバックを心がけよう 第10回： おさえておきたい労働衛生に関するルール 第11回： 産業カウンセリングの実際（ビデオ鑑賞） 第12回： キャリアのカウンセリング1ー自分の持ち味と「適材適所」 第13回： キャリアのカウンセリング2ー人生は計画性と偶然性のミックスジュース 第14回： キャリアのカウンセリング3ー人生の「転機」と「生きがい」 第15回： まとめ、質疑応答、試験
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	一方的な情報提供（講義）ではなく、体験学習をねらいとしたワークを授業に取り入れます。
評価方法 Evaluation	出席（遅刻の有無）重視。課題としてブックレポートの提出および発表。試験の成績を加味します。あえて評価を数式で表現すれば、下記の通りです。 成績100＝出席率（40）＋課題（30）＋試験（30）
履修上の注意 Requirements and policy	遅刻されるとワークに差し支えます。遅刻せずに出席できるよう意欲と体調を勘案して選択して欲しい。特に就活を念頭においた学生は出席日数の不都合のないように注意してください。
教科書 Textbook(s)	ブックレポートを作成するために、参考図書の一読が必要となりますので、購入も検討して下さい。また、ご自分の進路選択関しても役立つ一冊となると思います。
参考書 Reference(s)	新刊キャリアの心理学 渡辺三枝子編（ナカニシヤ書店） これからの職場のメンタルヘルス 藤井久和（創元社） フランクルを学ぶ人のために 山田邦男編（世界思想社）
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	社会心理学B／社会心理学II						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	社会心理学A（Ⅰ）に引き続き、B（Ⅱ）では主に、集団行動や大衆現象、身近な社会問題の領域について、人間の社会行動の心理学的法則を学習する。また、社会心理学の研究方法を学ぶために、具体的な研究例を数多く紹介する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人と集団 2. 集団の凝集性，意思決定，集団思考 3. 集団規範 4. 同調と服従，リーダーシップ 5. 個人発表のための文献検索 6. 文化と人間 7. 援助行動 8. エコロジー 9. ストレス 10. ジェンダー 11. 個人発表会Ⅰ 12. 個人発表会Ⅱ 13. 個人発表会Ⅲ 14. 質疑応答 15. 後期試験
参照URL Reference URL (s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	平常点20%， 発表30%， 定期試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	座席指定
教科書 Textbook (s)	社会心理学 著 藤原武弘（編著）（培風館）
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学調査法／社会心理学研究法						
担当教員	久津木 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学の調査法の一つとして質問紙調査がある。本講義では質問項目の作成から分析方法までについて講義し、実際にサンプルデータの分析を各自行う。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1 質問紙調査とは何か 2 調査目的の明確化と仮説モデルの作成 3 先行研究の文献検索 4 調査方法の選定・サンプリング 5 質問紙の作成（質問文、回答方法、和—ディング） 6 尺度構成 7 データ入力（コード化、無効票の処理、データのクリーニング） 8 自由回答のカテゴリー化、再コード化 9 単純集計（度数分布、基本統計量）、尺度得点の作成 10 クロス集計とカイ二乗検定、相関 11 推定と検定 12 平均値の差の検定（t 検定と分散分析） 13 重回帰分析 14 結果の解釈、考察、仮説モデルとの照合 15 報告書の作成
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義方式 個別作業
評価方法 Evaluation	平常点（授業態度及び課題への取り組み等）40%、 提出課題60%
履修上の注意 Requirements and policy	私語厳禁 履修制限40名 遅刻は欠席となる
教科書 Textbook(s)	適宜紹介
参考書 Reference(s)	適宜紹介
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	障害児の心理						
担当教員	近池 操						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	特別支援教育の実際について学ぶ。 発達障害や学習障害の子どもたちへの理解と支援の方法について学ぶ。 知的障害・視覚障害・聴覚障害・身体障害などの子どもたちの発達や教育方法について学ぶ。
授業計画 Syllabus	第1回 障害とはなにか 特別支援教育について 第2回 脳の機能と障害 第3回 LDの子どもへの理解と支援 第4回 読字障害について 第5回 ADHDの子どもへの理解と支援 第6回 アスペルガー障害の子どもへの理解と支援 第7回 自閉性障害の子どもへの理解と支援 第8回 軽度知的障害の子どもへの理解と支援 第9回 聴覚障害の子どもへの理解と支援 第10回 視覚障害の子どもへの理解と支援 第11回 肢体不自由の子どもへの理解と支援 第12回 障害のある子どもをもった家族への理解と支援 第13回 発達障害と感覚運動障害についてのまとめ 第14回 発達障害の子どもへの事例 第15回 感覚運動障害の子どもへの事例
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義および視聴覚教材での子どもの観察、ディスカッション
評価方法 Evaluation	出席30%課題提出20%試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	障害の理解のために日常的な関心をもって生活していくことを期待します。 授業への積極的な参加を期待します。
教科書 Textbook (s)	発達障害の子どもたち 杉山登志郎著 講談社
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	トラウマや生と死に関するテーマ、およびその関連領域についての内外の文献を講読し、さまざまな問題や支援のあり方について学習する。毎回担当者を決め、各自で選んだ論文の内容を紹介し、参加者全員で議論を深める。最終的には、各自の興味に沿って卒業研究のテーマを絞り込むことを目的とする。
授業計画 Syllabus	第1回：文献研究に関する発表と討論（1） 第2回：文献研究に関する発表と討論（2） 第3回：文献研究に関する発表と討論（3） 第4回：文献研究に関する発表と討論（4） 第5回：文献研究に関する発表と討論（5） 第6回：文献研究に関する発表と討論（6） 第7回：文献研究に関する発表と討論（7） 第8回：文献研究に関する発表と討論（8） 第9回：文献研究に関する発表と討論（9） 第10回：文献研究に関する発表と討論（10） 第11回：文献研究に関する発表と討論（11） 第12回：文献研究に関する発表と討論（12） 第13回：卒業研究計画に関する発表と討論（1） 第14回：卒業研究計画に関する発表と討論（2） 第15回：卒業研究計画に関する発表と討論（3）
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	評価方法：発表（60%）や討論への参加（40%）により評価を行う。
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な授業参加が求められる。無断欠席は厳禁。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	久津木 文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学演習A（前期）から引き続き、個別のテーマに沿って文献を読み、討議を重ね、考察を深めるのが目的である。卒論につながっていくような興味やテーマを得ることが重要である。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 夏休み中の課題の提出及びテーマの修正など 2. 個人発表とディスカッション1 3. 個人発表とディスカッション2 4. 個人発表とディスカッション3 5. 文献検索・収集1 6. 文献検索・収集2 7. 個人発表とディスカッション（文献）4 8. 個人発表とディスカッション（文献）5 9. 個人発表とディスカッション（文献）6 10. 興味のあるテーマ発表とディスカッション1 11. 興味のあるテーマの発表とディスカッション2 12. 興味のあるテーマの発表とディスカッション3 13. 個人発表とディスカッション（研究計画） 14. 個人発表とディスカッション（研究計画） 15. 個人発表とディスカッション（研究計画）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	ゼミナール方式
評価方法 Evaluation	授業への貢献及び取り組み（ディスカッション等）50%、発表50%
履修上の注意 Requirements and policy	発表担当者はゼミ人数分の資料（レジュメ）を用意すること。 発表担当者は担当する文献・資料などをしっかり読み、ディスカッションできるようにしておくこと。 担当に当たっていなくともディスカッションに必ず参加すること（必ず1授業1回はコメント・質問をすること）。 未定であるが、保育所訪問等、学外での活動がある可能性あり（交通費は自己負担となる）。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する
参考書 Reference(s)	プリントを配布する
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	坂本 真佐哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	カウンセリングや心理療法、コミュニケーションなどに関する様々な理論や技法について広く学習し、さまざまな心理的な問題の解決について理解を深める。学校現場や医療現場で行なわれている臨床実践に関わる文献（特に論文）を中心としてお互いに紹介し、討論をすすめていく形で行う。臨床心理学分野における学術論文の読み方、データの解釈などについて学びながら興味に従ってテーマを絞り、後半は卒業論文のための研究計画を立てる。
授業計画 Syllabus	第1回：学術論文の検索について（1） 第2回：学術論文の検索について（2） 第3回：学術論文の検索について（3） 第4回：学術論文のデータ解釈について（1） 第5回：学術論文のデータ解釈について（2） 第6回：学術論文のデータ解釈について（3） 第7回：学術論文のデータ解釈について（4） 第8回：学術論文のデータ解釈について（5） 第9回：調査／実験の方法論と倫理（1） 第10回：調査／実験の方法論と倫理（2） 第11回：調査／実験の方法論と倫理（3） 第12回：研究計画の立て方 第13回：研究計画に関する討論（1） 第14回：研究計画に関する討論（2） 第15回：研究計画に関する討論（3）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習形式とし、すべての授業で討論を行う
評価方法 Evaluation	出席60%、発表40%
履修上の注意 Requirements and policy	必ず出席し、積極的に発言すること
教科書 Textbook(s)	なし
参考書 Reference(s)	なし
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	寺井 さち子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>乳児期から思春期の子どもについての心理学的理解を深める。 乳児期から思春期青年期までの子どもを主たる対象とし、発達心理学を含めた全般的な子ども理解を行う。さらに精神分析的発達論、子どもの問題行動や症状が示す意味・心理的メカニズムについての臨床的学びへと進む。具体的には①発達障害、②情緒障害、③不登校や引きこもり、④その他子どもの心理的問題を取り上げる。 そうした1年間の授業の流れを踏まえ、各学生は自らそれぞれ興味ある書籍や論文を選んで勉強を進め、発表担当日には要約のレジメを用意して口頭発表を行う。最終的には、各自の興味に沿って卒業研究のテーマを絞り込むことを目的とする。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>15. 情緒障害について学習・発表。 16. 現代の子どもの状況①（乳児期）について学習・発表。 17. 現代の子どもの状況②（幼児期）について学習・発表。 18. 現代の子どもの状況③（学童期）について学習・発表。 19. 現代の思春期・青年期の状況①について学習・発表。 20. 現代の思春期・青年期の状況②について学習・発表。 21. 卒論取組みの準備。①テーマ探し。 22. 卒論取組みの準備。②テーマについて討議。 23. 卒論取組みの準備。③テーマについて発表。 24. 卒論テーマに添って学習を深める。 25. 卒論テーマに添って学習を深める。 26. 卒論テーマに添って深めた学習を順次発表。 27. 卒論テーマに添って深めた学習を順次発表。 28. 次年度に向けて計画書を試案。 29. 次年度に向けて研究計画を発表。 30. 卒論研究計画書の作成・提出。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	学生が自発的に文献を選びレジメに纏めてきたものを発表する演習の形式を中心とする。						
評価方法 Evaluation	出席点30% 発表態度及び発表内容点70%						
履修上の注意 Requirements and policy	毎回出席を原則とする。欠席の場合はレポート等の宿題を課する場合がある。						
教科書 Textbook(s)	特定の教科書は使用しない。						
参考書 Reference(s)	必要に応じて授業中に紹介するが、学生各自が積極的に興味ある書籍を見つけて学習することが前提となる。						
備考 Remarks							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	社会心理学の最近の研究を、雑誌論文（「心理学研究」、「社会心理学研究」、「実験社会心理学研究」など）の中から選び、まとめ、発表する。
授業計画 Syllabus	第1回 個人発表と討論8（夏季休暇中の課題の提出） 第2回 文献（先行研究論文）収集1 第3回 文献（先行研究論文）収集2 第4回 文献（先行研究論文）収集3 第5回 個人発表と討論9（先行研究のまとめ） 第6回 個人発表と討論10（先行研究のまとめ） 第7回 個人発表と討論11（先行研究のまとめ） 第8回 仮説モデルの修正1 第9回 仮説モデルの修正2 第10回 研究方法の比較検討1 第11回 研究方法の比較検討2 第12回 個人発表と討論12（修正モデルと研究方法） 第13回 研究計画書の作成1 第14回 研究計画書の作成2 第15回 個人発表と討論13（研究計画のまとめ）
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	ゼミナール形式
評価方法 Evaluation	授業中の発表50%，議論への貢献度50%
履修上の注意 Requirements and policy	発表の際には、ゼミ人数分のレジユメを用意すること
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	中村 博文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：卒業研究のテーマ決定</p> <p>心理学演習Aに引き続き、受講生各自が興味をもつ臨床心理学のテーマについて、内外の文献を取り上げ、発表・討論を行うことで、テーマについての理解をさらに深める。その上で、最終的に卒業論文のテーマを決定することを目的とする。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：演習の進め方についてのオリエンテーション</p> <p>#02：受講生による発表と討論－1周目の①</p> <p>#03：受講生による発表と討論－1周目の②</p> <p>#04：受講生による発表と討論－1周目の③</p> <p>#05：1周目の発表についての全体講評とディスカッション</p> <p>#06：受講生による発表と討論－2周目の①</p> <p>#07：受講生による発表と討論－2周目の②</p> <p>#08：受講生による発表と討論－2周目の③</p> <p>#09：2周目の発表についての全体講評とディスカッション</p> <p>#10：受講生による発表と討論－3周目の①</p> <p>#11：受講生による発表と討論－3周目の②</p> <p>#12：受講生による発表と討論－3周目の③</p> <p>#13：3周目の発表についての全体講評とディスカッション</p> <p>#14：卒業研究計画書と文献リストの提出①</p> <p>#15：卒業研究計画書と文献リストの提出②</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	発表（60%）や討論への参加態度（40%）により評価を行う。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>毎回、数名ずつ（受講人数によりその数は異なる）発表を行い、それに基づいて全員での討論を行う。発表・討論ともに、積極的に取り組むことを求める。</p> <p>なお、相応の理由なく欠席することは認めない。</p>
教科書 Textbook(s)	指定しない。
参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	東 豊						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	臨床心理学領域で各自関心のあるテーマに沿って研究論文や書籍を精読・発表し、全体でディスカッションを行い、講師から解説を加える。徐々に卒業研究のテーマを絞り込んで行く。						
授業計画 Syllabus	第1回 卒業論文のテーマを選ぶ① 個人発表 第2回 卒業論文のテーマを選ぶ② 個人発表 第3回 卒業論文のテーマを選ぶ③ 個人発表 第4回 卒業論文のテーマを選ぶ④ 個人発表 第5回 卒業論文のテーマを選ぶ⑤ 個人発表 第6回 卒業論文のテーマを選ぶ⑥ 個人発表 第7回 卒業論文の書き方① 「問題」の立て方 第8回 卒業論文の書き方② 「方法」の組み立て方 第9回 卒業論文の書き方③ 「結果」の処理の方法 第10回 卒業論文の書き方④ 「考察」のポイント 第11回 卒業論文計画書の報告① 個人発表 第12回 卒業論文計画書の報告② 個人発表 第13回 卒業論文計画書の報告③ 個人発表 第14回 卒業論文計画書の報告④ 個人発表 第15回 卒業論文計画書の報告⑤ 個人発表						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習						
評価方法 Evaluation	平常点 100%						
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視						
教科書 Textbook(s)	プリント配布						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学演習B						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	進化心理学、非言語コミュニケーション、ネットワークを介したコミュニケーションなどに関する本や論文に基づき研究テーマを決め、追試的研究を行ってみる。データ収集の方法を計画・実施し、分析してみる中でEXCELを用いたデータの分析方法を習得する。そして、論文形式のレポートを作成することにより、論文作成の技術も習得する。
授業計画 Syllabus	第1回 研究テーマについて考える 第2回 研究テーマの発表 第3回 研究方法について考える 第4回 研究方法の立案 第5回 データの収集 第6回 データの入力 第7回 データの集計 第8回 データの分析 第9回 結果の図や表での表示 第10回 結果の書き方 第11回 考察の書き方 第12回 調査結果の発表 (1) 第13回 調査結果の発表 (2) 第14回 調査結果の発表 (3) 第15回 調査結果の発表 (4)
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	授業中での発表など平常点60%と期末レポート40%
履修上の注意 Requirements and policy	休まず授業に出席して、自ら関心を持って取り組むことが必要です。
教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学概論						
担当教員	土肥 伊都子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学の幅広い分野を、教科書の内容にそって学習する。これにより、心理学という学問は、心のはたらきを「行動」として捉え、その法則を科学的に定立するものであることが理解できる。また、授業時間の一部を使ってできる、簡単な実験や質問紙調査を行い、自己分析も行う。
授業計画 Syllabus	第1回 科学としての心理学 第2回 知覚 第3回 学習 第4回 記憶 第5回 認知とスキーマ 第6回 思考 第7回 パーソナリティ（1） 第8回 パーソナリティ（2） 第9回 発達（1） 第10回 発達（2） 第11回 知能 第12回 対人魅力 第13回 心の健康、ストレス 第14回 集団行動 第15回 まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	出席状況30%、定期試験70%
履修上の注意 Requirements and policy	出席を重視し、座席指定にします。
教科書 Textbook(s)	「現代心理学への招待」 塚本伸一・堀 耕治（編著）（樹村房）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B／久津木文・田中善大・日置孝一						
担当教員	久津木文・田中善大・日置孝一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	1～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学の基礎の体験的理解</p> <p>心理学基礎実習Aに引き続いて、基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。また、実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得するが、心理学基礎実習Aよりもより完成度の高いレポート作成を目指す。複数教員共同担当のオムニバス方式</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回から第10回の授業内容はクラスによって順序が異なります。</p> <p>第1回 ストループ 第2回 アンケート調査・質問紙実験の計画 第3回 アンケート調査・質問紙実験実施・分析 第4回 ミュラー・リアー錯視 第5回 ミュラー・リアー錯視つづき 第6回 両側性転移 第7回 日常記憶 第8回 印象形成 第9回 同調行動 第10回から第15回 実験を自主的に計画、実施してグループワークを行う</p>
参照URL Reference URL(s)	<p>心理学科レポート作成の手引き http://ksw.shoin.ac.jp/dept/psychol/psych/report/</p>
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	<p>授業への取り組み、レポート課題の得点、出席・遅刻などの状況を総合的に評価する。 随時レポート課題が出るので、それをきちんと期日までに提出すること。 平常点（授業態度、授業への貢献）30%、レポート提出70%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>3，4限続きの授業につき、最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。</p>
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B／久津木文・田中善大・日置孝一						
担当教員	久津木文・田中善大・日置孝一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	1～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学の基礎の体験的理解</p> <p>心理学基礎実習Aに引き続いて、基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。また、実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得するが、心理学基礎実習Aよりもより完成度の高いレポート作成を目指す。複数教員共同担当のオムニバス方式</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回から第10回の授業内容はクラスによって順序が異なります。</p> <p>第1回 ストループ 第2回 アンケート調査・質問紙実験の計画 第3回 アンケート調査・質問紙実験実施・分析 第4回 ミュラー・リアー錯視 第5回 ミュラー・リアー錯視つづき 第6回 両側性転移 第7回 日常記憶 第8回 印象形成 第9回 同調行動 第10回から第15回 実験を自主的に計画、実施してグループワークを行う</p>
参照URL Reference URL(s)	<p>心理学科レポート作成の手引き http://ksw.shoin.ac.jp/dept/psychol/psych/report/</p>
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	<p>授業への取り組み、レポート課題の得点、出席・遅刻などの状況を総合的に評価する。 随時レポート課題が出るので、それをきちんと期日までに提出すること。 平常点（授業態度、授業への貢献）30%、レポート提出70%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>3，4限続きの授業につき、最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。</p>
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学基礎実習B／久津木文・田中善大・日置孝一						
担当教員	久津木文・田中善大・日置孝一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3～4	配当学年	1～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：心理学の基礎の体験的理解</p> <p>心理学基礎実習Aに引き続いて、基礎心理学分野を中心に心理学の研究方法の基礎について学ぶ。具体的には、少人数クラス編成において、感覚・知覚、記憶、社会的影響など各分野の小実験を実験者または被験者として参加しながら体験し、実験的技法や実証的技法を体得することを目的としている。また、実施した実験についてのレポートの作成を通じて、問題の設定、研究方法の選択、実験データの分析とグラフ化、考察の仕方を習得するが、心理学基礎実習Aよりもより完成度の高いレポート作成を目指す。複数教員共同担当のオムニバス方式</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回から第10回の授業内容はクラスによって順序が異なります。</p> <p>第1回 ストループ 第2回 アンケート調査・質問紙実験の計画 第3回 アンケート調査・質問紙実験実施・分析 第4回 ミュラー・リアー錯視 第5回 ミュラー・リアー錯視つづき 第6回 両側性転移 第7回 日常記憶 第8回 印象形成 第9回 同調行動 第10回から第15回 実験を自主的に計画、実施してグループワークを行う</p>
参照URL Reference URL(s)	<p>心理学科レポート作成の手引き http://ksw.shoin.ac.jp/dept/psychol/psych/report/</p>
授業方法 Class type	実習
評価方法 Evaluation	<p>授業への取り組み、レポート課題の得点、出席・遅刻などの状況を総合的に評価する。 随時レポート課題が出るので、それをきちんと期日までに提出すること。 平常点（授業態度、授業への貢献）30%，レポート提出70%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>3，4限続きの授業につき、最初から出席すること。開始時刻に遅れたら実験に参加できないので、遅刻厳禁。データ処理に使用するので電卓を持参すること。</p>
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理学上級演習Ⅰ／心理学特別演習Ⅰ						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	3～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ 大学院進学などより高い専門性を目指せる能力の習得 大学院進学など心理学のより高い専門性を目指す学生を対象とした授業。 心理学のテキストの読解を通して、心理学の専門的論文を読みこなす上で必要な能力の養成を行うと同時に、心理学の諸概念や用語の正確な理解を目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 心理学の歴史 第2回 知覚 第3回 認知 第4回 学習1：条件づけ 第5回 学習2：様々な学習 第6回 記憶 第7回 動機づけと情動 第8回 知能 第9回 性格 第10回 初期発達 第11回 発達の理論 第12回 社会的認知 第13回 社会と人間 第14回 コミュニケーション 第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	期末試験が70%、出席状況など平常点30%
履修上の注意 Requirements and policy	毎回予習が必要です。意欲的な人のみ受講してください。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB／心理検査法II						
担当教員	中村 博文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：投映法の学習</p> <p>「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テストなどについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、実習を通じて学ぶ。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：オリエンテーションー投映法とは？</p> <p>#02：描画法①ー人物画テスト</p> <p>#03：描画法②ーS-HTP</p> <p>#04：SCT①ー理論と施行法</p> <p>#05：SCT②ー結果の整理と解釈</p> <p>#06：PFスタディ①ー理論と施行法</p> <p>#07：PFスタディ②ー結果の整理と解釈(1)</p> <p>#08：PFスタディ③ー結果の整理と解釈(2)</p> <p>#09：PFスタディ④ー結果の整理と解釈(3)</p> <p>#10：ロールシャッハ・テスト①ー理論と施行法</p> <p>#11：ロールシャッハ・テスト②ー結果の整理と解釈(1)</p> <p>#12：ロールシャッハ・テスト③ー結果の整理と解釈(2)</p> <p>#13：ロールシャッハ・テスト④ー結果の整理と解釈(3)</p> <p>#14：ロールシャッハ・テスト⑤ー結果の整理と解釈(4)</p> <p>#15：まとめ、レポート提出</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習，演習形式
評価方法 Evaluation	出席（30%），授業へのコミットの程度（30%），および検査実習レポート（40%）により評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習と演習を中心とする授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。自分自身を被験者として検査実習を行うことが中心となるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。
教科書 Textbook(s)	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理テストB／心理検査法II						
担当教員	中村 博文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：投映法の学習</p> <p>「投映法」といわれる一連の心理検査法について学習する。具体的には、描画法、文章完成法（SCT）、PFスタディ、ロールシャッハ・テストなどについて、それらの特徴、実施法、整理法、解釈法といったことを、実習を通じて学ぶ。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：オリエンテーションー投映法とは？</p> <p>#02：描画法①ー人物画テスト</p> <p>#03：描画法②ーS-HTP</p> <p>#04：SCT①ー理論と施行法</p> <p>#05：SCT②ー結果の整理と解釈</p> <p>#06：PFスタディ①ー理論と施行法</p> <p>#07：PFスタディ②ー結果の整理と解釈(1)</p> <p>#08：PFスタディ③ー結果の整理と解釈(2)</p> <p>#09：PFスタディ④ー結果の整理と解釈(3)</p> <p>#10：ロールシャッハ・テスト①ー理論と施行法</p> <p>#11：ロールシャッハ・テスト②ー結果の整理と解釈(1)</p> <p>#12：ロールシャッハ・テスト③ー結果の整理と解釈(2)</p> <p>#13：ロールシャッハ・テスト④ー結果の整理と解釈(3)</p> <p>#14：ロールシャッハ・テスト⑤ー結果の整理と解釈(4)</p> <p>#15：まとめ、レポート提出</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	実習，演習形式
評価方法 Evaluation	出席（30%），授業へのコミットの程度（30%），および検査実習レポート（40%）により評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	実習と演習を中心とする授業なので、欠席や遅刻は原則として認めない。自分自身を被験者として検査実習を行うことが中心となるため、そのことを踏まえて受講を検討すること。
教科書 Textbook(s)	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	統計基礎論／心理統計法						
担当教員	原田 章						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】心理学で用いる統計解析手法の基礎</p> <p>【概要】心理学研究で行う実験や調査で必要となる統計学の基礎的内容の習得を目的とする。基礎的なデータ整理法から始め、確率的判断を用いた統計的検定までを扱うこととする。日常生活に見られる例を挙げながら、統計量の見方や考え方を学びつつ、簡単な演習を行う。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ統計学が必要なのか？ 2. 度数分布表とヒストグラム 3. 代表値 4. 散布度 5. データの標準化と偏差値 6. 相関係数 7. 確率で事象を考える 8. 確率分布 9. 統計的検定の考え方 10. 平均の差の検定(t検定) 11. 分散比の検定 12. 独立性の検定 13. 相関係数の検定 14. 演習 15. まとめとテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と簡単な演習
評価方法 Evaluation	3分の2以上の出席が必須。出席と授業内試験で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	四則演算と平方根が計算できる電卓を授業中に使うので用意すること。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法II						
担当教員	寺井 さち子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	子どもの心理療法の中に盛り込まれている多くの知見に触れ、臨床心理学的素養を深める 子どもの心理療法（遊戯療法ほか）には、「心の闇」とも呼ばれるような、子どもの心のあり様についての豊富な知見が多く盛り込まれている。それらを専門的に理解し扱うことは決して容易くない。しかしそれら臨床的素材を分かりやすく解説し、子ども理解の一助とすることは可能である。子どもが呈する様々な症状を具体的に紹介し、それを子どもの精神疾患と結びつけるなどしながら、子どもの精神の健康・不健康について考え、臨床心理学的理解を深めることを目的とする。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理療法IIについての解説。 2. 日本における昨今の子どもの現状概観。 3. 子どもの症状①親と離れられない子。 4. 子どもの症状②友達と遊べない子。 5. 子どもの症状③癖のいろいろ。 6. 子どもの症状④頻尿や夜尿。 7. 子どもの症状⑤死にたがる子。 8. 子どもの症状⑥集中力がない子。 9. 子どもの症状⑦嘘やいたずら、粗暴行動 10. 子どもの症状⑧発作。 11. 子どもの症状⑨強迫的行動や強迫観念 12. 子どもの症状⑩非行行動 13. 子どもの心理療法① 14. 子どもの心理療法② 15. まとめと振り返り
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	板書を中心に、ビデオ、DVD、プリント等を併用しながら教員が講義を行う。
評価方法 Evaluation	学期末試験を中心に評価する。出席状況10%、提出物が10%、学期末の確認テストの結果が80%の割合で評価を行なう予定。学期末確認テストは持ち込みなしで行われる予定。
履修上の注意 Requirements and policy	ビデオ等を使用し、授業内にレポート提出を求める場合もあるので、できるだけ出席すること
教科書 Textbook(s)	板書を中心に講義を進め、必要に応じて適宜プリントを配布する
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	私語や携帯メールの使用は原則禁止。授業の邪魔と見做される行為には厳しく対処する。

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	心理療法Ⅳ						
担当教員	東 豊						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>家族療法 心理療法にはいくつかの方法があるが、その中から家族療法について理論と方法を学ぶ。家族療法はシステム論や社会構成主義の考え方に基づく技法群で、不登校や摂食障害等に効果的である。講師の経験した事例を中心に、できる限り具体的実内容的な内容にしたい。実生活でも役に立つ内容を多く含むので、本講で学ぶことが学生諸君の日常をいっそう豊かなものにしてくれると思う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 授業内容と進め方について 第2回 心理療法とは何か 第3回 家族療法とは何か 第4回 システムとしての家族 第5回 円環的なものの見方 第6回 家族の構造 第7回 構造的家族療法の考え方と技法 第8回 構造的家族療法の事例 第9回 家族のコミュニケーション 第10回 コミュニケーション・アプローチの考え方と技法 第11回 コミュニケーション・アプローチの事例 第12回 ストラテジック・アプローチの考え方と技法 第13回 ストラテジック・アプローチの事例 第14回 最新の家族療法～ナラティブ・アプローチとソリューション・アプローチ 第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常点 30% 期末テスト 70%
履修上の注意 Requirements and policy	2/3以上の出席が求められます。
教科書 Textbook(s)	セラピスト入門 (日本評論社)
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	人格心理学						
担当教員	日置 孝一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	本講義では、ヒトを理解するための基本的な枠組みとして、人格（パーソナリティ）に関するこれまでの研究やその方法論を概括し、自分も含めたヒトについて、様々な角度から理解を深めることを目的とする。
授業計画 Syllabus	第1回目：人格（パーソナリティ）心理学とは 第2回目：定義 第3回目：研究史 第4回目：諸理論（1） 第5回目：諸理論（2） 第6回目：パーソナリティと発達（1） 第7回目：パーソナリティと発達（2） 第8回目：パーソナリティと対人関係 第9回目：パーソナリティと文化 第10回目：パーソナリティの測定法（1） 第10回目：パーソナリティの測定法（2） 第11回目：パーソナリティの変容（1） 第12回目：パーソナリティの変容（2） 第13回目：自分のパーソナリティを考える 第14回目：復習ならびに試験 第15回目：まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験
履修上の注意 Requirements and policy	積極的な態度で授業に参加してください
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	成人期・老年期の臨床心理学						
担当教員	中村 博文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：成人期・老年期の課題と危機</p> <p>本講義では、成人期および老年期における心理的な発達や発達課題、またこれらの時期に生じやすい問題や危機について概観する。その上で、それぞれの時期における臨床心理学的な援助について検討する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>#01：オリエンテーションー生涯発達論的視座から見た成人期と老年期</p> <p>#02：成人期の心理学的特徴と発達課題</p> <p>#03：結婚・妊娠・出産</p> <p>#04：子育て</p> <p>#05：職場における問題（1）</p> <p>#06：職場における問題（2）</p> <p>#07：中年期危機</p> <p>#08：介護における心理的問題</p> <p>#09：老年期の心理学的特徴と発達課題</p> <p>#10：認知症</p> <p>#11：老年期うつ</p> <p>#12：老年期の対象喪失</p> <p>#13：死への不安</p> <p>#14：まとめ、試験</p> <p>#15：試験解題</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	毎回の小レポート（15%）、および期末試験（85%）により行う。
履修上の注意 Requirements and policy	毎回授業の最後に、小レポート（問いに対する回答、質問、感想）の提出を求める。
教科書 Textbook(s)	必要に応じて、プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	適時紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	青年期の臨床心理学／臨床心理学研究法V						
担当教員	赤津 玲子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	青年期とは何か、その理解の仕方について日常的に感じているようないくつかの観点から概観する。
授業計画 Syllabus	第1回 青年期とは何か 第2～3回 「私って何だろう」青年期における自己理解の様々な視点 第4回 「親の気持ちがわからない」祖父母や親世代の青年期 第5回 「自分じゃどうにもならない」脳・身体から見た青年期 第6～7回 「友達とうまくいかない」友人関係から見た青年期 第8～9回 「うまく恋愛したい」異性関係から見た青年期 第10～11回 「親とどう付き合ったらいいの」家族から見た青年期 第12回 「将来どうしよう」社会的役割から見た青年期 第13回 「自分は病気かもしれない」青年期の精神病理 第14回 「こういうの日本だけなの？」異文化における青年期の理解 第15回 まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義を中心とする
評価方法 Evaluation	出席と小レポート、テスト
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	適宜プリントを配布
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	生理心理学						
担当教員	坂井 信之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>こころとからだの関係を科学する 我々ヒトの体はどのように作られ、どのように機能しているかということについては、よく知られています。でも、こころがどのように機能しているかということについては、心理学の100年強の歴史を持ってしても、未だにわからないことがたくさんあります。そこで、この授業では、こころの機能を体（主に脳）との関係を通して理解することにより、皆さんのこころへの理解を一步進めたいと思っています。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義の説明と導入 授業の進め方についての説明、簡単な生物学知識の復習 2. 生まれ (nature) か育ち (nurture) か 生得説=遺伝子中心主義、経験主義=ヒトは生物ではない（それを超えるモノだ）説 3. 遺伝子とDNA ヒトゲノム計画、様々な遺伝病、ポストゲノムと心理学 4. 神経細胞と細胞内情報伝達 ニューロン、シナプス、神経伝達物質、レセプター、セカンドメッセンジャー、神経の可塑性 5. 神経とからだの機能 痛覚、呼吸・心拍数、覚醒・睡眠、消化・吸収 6. 中枢神経系の研究方法 脳波、脳磁場計測、functional MRI、PET、損傷・破壊法 7. 大脳皮質と大脳辺縁系 前頭葉、島皮質、扁桃体、視床下部、海馬 8. 視覚・聴覚・体性感覚 動きと形、認知、統合、注意、身体心像（幻肢） 9. 化学感覚（嗅覚・味覚） 二オイ、味、風味知覚、共感覚 10. 学習の神経的基盤 シナプス長期増強、記憶、海馬 11. ホメオスタシス 環境への適応、血糖値とインスリン 12. 行動の生物学的基盤 食行動、性行動、社会行動 13. 性格と脳・遺伝子の関係 セロトニン、うつ病、性格は「生まれ」か「育ち」か？ 14. 脳とこころ 感じているのは脳かこころか？ 15. まとめ
参照URL Reference URL(s)	http://kssakai1.shoin.ac.jp/~nob_sakai/Biopsy/PPindex.html
授業方法 Class type	プレゼンテーションソフトを使った講演形式の授業となる。すべてのスライドのメモを取る必要はない。なお、ホームページなどでのスライドの公開を予定しているので、授業の前に確認しておくこと。
評価方法 Evaluation	出席点、小レポートとテストより総合的に判断する（だいたいの配分は1:1:2）。
履修上の注意 Requirements and policy	出席点とは、単に出席するだけで与えられるものではなく、小レポートや課題など、授業への積極的な参加に基づいて、評価するものである。授業中の携帯電話やメールの使用、居眠り、私語、途中退出などに対しては厳しく対処（出席点より減点）する。
教科書 Textbook(s)	

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	認知心理学						
担当教員	中尾 美月						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>認知とは「知る」ことである。 人は「こころ」を通して、外界を、他者を、そして自分自身を認知している。 この授業では、認知の基礎的なメカニズムを学ぶことによって、「こころ」の不思議さを実感し、人に対するより深い理解と関心を持つようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1講 認知心理学とは 第2講 知覚1 知覚の不思議 第3講 知覚2 光と色の心理学 第4講 知覚3 三次元の世界 第5講 記憶1 自由再生の実験からわかること 第6講 記憶2 感覚記憶と短期記憶 第7講 記憶3 長期記憶 第8講 心の病と認知1 ストレスと認知 第9講 心の病と認知2 うつと認知 第10講 心の病と認知3 認知療法 第11講 社会的認知1 人間関係の認知 第12講 社会的認知2 自己認知 第13講 社会的認知3 他者認知 第14講 まとめと試験 第15講 試験解説</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>人の認知の特徴やしぐみについて、講義と体験学習を通して理解する。 講義では、主に配付資料、スライド、ビデオを用いる。</p>
評価方法 Evaluation	<p>感想カード30%、期末試験70%として評価する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>基本的に、授業を聞きたい者にとって、邪魔になる行為を禁止する。 ①私語は厳禁。私語で周りに迷惑をかける者には退場を命じることもある。 ②携帯電話は、電源を切るかマナーモードにしておくこと。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>テキストは使用しない。毎週、資料を配布する。</p>
参考書 Reference(s)	<p>参考文献は必要に応じて適宜紹介する。</p>
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	発達心理学B／発達心理学II						
担当教員	久津木 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	人の生涯に渡る変化を扱うのが発達心理学であり、現在、その対象は生まれる前から死に至るまでを含む。本講義では主に、幼児期のコミュニケーション発達から児童期、そして大人になってからの発達の变化を含む。本講義を履修の際には「発達心理学A」をすでに履修しているか、「発達心理学A」で概説されている内容を図書などで理解しておくことが強く求められる。
授業計画 Syllabus	1オリエンテーション これまでのおさらい 2幼児期～言語の獲得 1 3幼児期～言語の獲得 2 4心の理論の発達 1 5心の理論の発達 2 6児童期～認知・思考 7児童期～対人関係の形成・道徳の発達 8青年期～身体と心・アイデンティティの統合 9成人期～社会経験の開始 10成人期～結婚と恋愛 11壮年期～親になること 12中年期～社会的役割の変化 13老年期～継続する変化 14試験 15試験の復習
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義方式 個人作業 ディスカッション
評価方法 Evaluation	平常点（授業態度等）30%，期末テスト70%
履修上の注意 Requirements and policy	私語厳禁 授業で指されたら何か言えるように常に授業の内容についてくること。
教科書 Textbook(s)	適宜紹介する
参考書 Reference(s)	適宜紹介する
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	被害者支援の心理学						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3~4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	被害者支援において、法的な問題や経済的な問題と同様、心理的な問題が重要な位置を占めることは言うまでもない。しかしながら、被害者の心の問題に対する支援体制は未だ整っていないのが現状である。本講義では、まず被害者支援の歴史や被害者支援の現状を理解する。そして、犯罪被害者への心理的支援に関する基本的枠組みについて学習したうえで、さまざまな犯罪被害における心理的問題とその対応について解説する。さらに援助者のストレスについても触れる。
授業計画 Syllabus	第1回：被害者支援の歴史 第2回：被害者の抱える心理的問題 第3回：精神科医療機関における被害者への治療の現状 第4回：犯罪被害者の治療の原則 第5回：被害者カウンセリングの基本 第6回：PTSDの治療 第7回：各論：遺族の心理的問題と対応① 第8回：各論：遺族の心理的問題と対応② 第9回：各論：性暴力被害者の心理的問題と対応 第10回：各論：虐待被害を受けた人の心理的問題と対応 第11回：各論：DV被害者の心理的問題と対応 第12回：援助者のストレスと対応 第13回：グループ発表と討議① 第14回：グループ発表と討議② 第15回：質疑応答と定期試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験（60%）や授業中に出す課題の提出（20%）、出席状況（20%）などを総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	講義だけでなく、グループに分かれて発表・討議も行うので、授業への積極的な参加が求められる。
教科書 Textbook(s)	プリントを使用する
参考書 Reference(s)	小西聖子（編著）『犯罪被害者のメンタルヘルス』 誠信書房 ISBN978-4-414-40047-2
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	福祉の心理学						
担当教員	松中 久美子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	
授業計画 Syllabus	
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	
評価方法 Evaluation	
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	心理学科専門教育科目						
科目名	臨床心理学B／臨床心理学II						
担当教員	大和田 攝子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	臨床心理学が対象とするさまざまな心理的問題について広く学習し、それらの見立てに必要な基本的姿勢の習得を目指す。特に、ライフサイクルの視点から、年齢段階ごとの発達課題や起こりやすい問題・病理の特徴をおさえ、さらに具体的な事例を取り上げて、その理解と対応について解説する。
授業計画 Syllabus	第1回：ライフサイクルにおける発達課題と心理的問題 第2回：乳幼児期 第3回：幼児期 第4回：児童期 第5回：思春期 第6回：青年期① 第7回：青年期② 第8回：青年期③ 第9回：成人期 第10回：中年期 第11回：老年期 第12回：トラウマ関連障害 第13回：グループ発表と討議① 第14回：グループ発表と討議② 第15回：質疑応答と試験
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験（60％）や授業中に出す課題の提出（20％）、出席状況（20％）などを総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	講義だけでなく、グループに分かれて発表・討議も行うので、授業への積極的な参加が求められる。
教科書 Textbook (s)	プリントを使用する
参考書 Reference (s)	授業中に紹介する
備考 Remarks	